

# 千年の森便り No.170

2017.09. 22

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

[sennennomori@hotmail.co.jp](mailto:sennennomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

### 9月18日（月）快晴

参加は会員 15 名。秋元、新井通子、伊藤、鶴沢、及川、刈米、坂本、田島、成沢、根本、福島、松田、真鍋、村野、山口。

大型で強い台風が夜半に日本海を通過して行きました。この影響で関東も朝まで強風が残りましたが、定例活動に支障は無く、先月から繰り越しとなっていた調査項目も含めて予定通りに実施できました。台風の置き土産の温暖な空気と強い日射により真夏日になる予報はあったものの、林内ではさほどの暑さも感じずに行動出来たのも幸いでした。

来月は外部から講師をお招きしてきのご観察の公開行事があります。今のところ会員外の参加申し込みが少な目ですから、知り合いや友人に出来るだけ声掛けして下さい。（坂本）



### ○ニホンジカ生息状況調査

台風 18 号の風が残る中、朝一番の活動としてニホンジカ生息状況調査を行った。

方法は、島内全域を7コースに分かれて一斉に踏査し、発見したニホンジカを記録するというものである。今回の調査時間は、9:50~10:20であった。調査の結果、目撃、声、足音などの記録はなく、新しい足跡やフンの発見もなかった。（福島）

### ○相対照度調査

ニホンジカ生息状況調査のあと、コナラ伐採地を中心に相対照度調査を行った。調査時の天気は、台風一過の青空で、日射しが強く調査には不適だったが、照度計に直達光が入らないようにして測定を行った。調査時間は、10:30~11:10、測定には、照度計 8 台、トランシーバー 4 台を使用した。測定箇所は、コナラ伐採地が 20 点（A-1~D-5）、千年広場、コナラ更新林の苗畑、コナラ更新林のヒメコマツ植栽地、岬のヒメコマツ植栽地の計 24 地点。測定回数は、各地点 4 回を基準とし、その平均値を各地点の相対照度とした。コナラ伐採地の相対照度を表 1、コナラ伐採地を含めた島内 5 地点の着葉期の相対照度の変化を表 2 に示した。コナラ伐採地の相対照度は、最大が 79.4%、最小が 17.3%、平均が 45.7%となり、今回の調査でも、1 列と D 列が、他の列に比べて相対照度が低かった。これは、周囲の広葉樹による被陰の影響と考えられる。また、島内 5 地点の相対照度は、コナラ更新林の苗畑が、22.4%と前年（5.7%）に比べて高くなった以外は、

おおむね前年の相対照度と同程度であった。コナラ更新林の苗畑については、前年と比べて周囲の環境が大きく変わってはいないことから、測定時の直達光が相対照度に影響した可能性がある。（福島）

表1 コナラ伐採地の相対照度 (%) (2017.9.18)

|    | 1    | 2    | 3    | 4    | 5    | 平均   |
|----|------|------|------|------|------|------|
| A  | 31.4 | 31.9 | 56.6 | 79.4 | 54.3 | 50.7 |
| B  | 30.5 | 46.2 | 64.5 | 74.0 | 64.8 | 56.0 |
| C  | 26.8 | 33.0 | 59.5 | 61.4 | 49.7 | 46.1 |
| D  | 17.3 | 22.2 | 34.0 | 41.0 | 36.3 | 30.2 |
| 平均 | 26.5 | 33.3 | 53.7 | 63.9 | 51.3 | 45.7 |

表2 島内5地点の着葉期の相対照度の変化

| 測定箇所        | 相対照度 (%)  |           |           |           |           |           |           |      |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------|
|             | 着葉期       |      |
|             | 2011.7.18 | 2012.7.16 | 2013.7.15 | 2014.7.21 | 2015.8.30 | 2016.8.21 | 2017.9.18 |      |
| 千年広場中央      |           | 18.9      | 16.4      | 16.4      | 19.3      | 29.7      | 26.8      | 33.9 |
| コナラ更新林の苗畑   |           | 19.3      | 14.0      | 21.7      | 22.2      | 8.8       | 5.7       | 22.4 |
| コナラ更新林ヒメコマツ |           | 41.0      | 42.0      | 58.1      | 35.7      | 43.1      | 48.5      | 47.1 |
| 岬ヒメコマツ      |           | 54.2      | 22.5      | 26.6      | 27.7      | 33.1      | 28.3      | 30.7 |
| コナラ伐採地      |           |           |           | 64.5      | 41.9      | 38.0      |           | 45.7 |

コナラ伐採地は、2015年8月以降20地点の平均値

## ○昆虫観察記録

台風一過の快晴、気温も上がり虫日和。夏の終わりを惜しむかのように、ツクツクボウシの声が森に響いています。シカ除けネットの中は、明るくて花が多いため、チョウが元気よく飛び交っています。「今日はチョウが多いね」と真鍋さん。オレンジ色のミドリヒョウモンが盛んに縄張り争いをしています。あらっ！真っ赤なナツアカネが見事な逆立ち。これは、日差しが強いとき、太陽に当たる部分を小さくすることです。



ミドリヒョウモン



ナツアカネ



オオトリノフンダシの卵囊



オオトリノフンダシ

昆虫ではありませんが、オオトリノフンダシという面白いクモがいました。木に枯葉がぶら下がっているように見えるのは、このクモの卵囊です。そばで、メスが見守っていました。あまり見られないクモなので、皆さんに見ていただくと、「クモに見えないなあ」との感想。鳥の糞？カマキリの顔？何に見えるでしょうか。（他に観察された昆虫）

ノシメトンボ、コシアキトンボ、オオカマキリ、カネタタキ声、アオバハゴロモ、ツマグロオオヨコバイ、アブラゼミ声、セアカツノカメムシ、オオセンチコガネ、クズノチビタマムシ、クロウリハムシ、キイロスズメバチ、クロスズメバチ、トゲアリ、アオスジアゲハ幼虫、キタキチョウ、ウラギンシジミ、コミスジ、ヒカゲチョウ、テングチョウ、イチモンジチョウ、イチモンジセセリ、ヒメウスアオジャク、ウスグロアツバ（田島）

## ○危険木処理

台風一過で遊歩道に散乱した枯れ枝の除去を行い、遊歩道に沿って立ち枯れた危険木の伐採作業を苅米、山口、根本が担当しました。特に、樹齢40年余りの枯れたアカマツが、根元付近から折れ掛木になったもの2本と、同じように枯れたコナラを12本ほど伐採しました遊歩道の危険木は少なくなりましたが、豊英島の千年の森に入る際には必ずヘルメットの着用をお願いします。（根本）



危険木処理作業（伊藤）

## ○秋の花たち

9月中旬を過ぎたとは思えない蒸し暑い活動日となりました。ギャップ地内はナガバノコウヤボウキ・シロヨメナ・ヤマハギ・オケラ・オトコエシ・シラヤマギクなどの花が咲き、オオバントンボソウの実も確認出来ました。植物保護柵があるお蔭でシカの害にあわず、かつての自然な風景を見る事が出来ます。また広場には可憐なヒメキンミズヒキの花も咲いていました。（新井通子）



ヒメキンミズヒキ（秋元） サルトリバラ（秋元）



ナガバノコウヤボウキ（福島）

ヤマハギ（坂本）

オケラ（福島）

オトコエシ（福島）

## ○きのこ

千年の森のキノコは、先月24日に観察したキノコと一変して、秋のキノコとなっております。先月は35種の内、菌根共生のキノコのテングタケ科が11種、イグチ科16種、ベニタケ科2種で大半を占められていたのが、今月は43種中、テングタケ科はわずか1種、イグチ科も5種、ベニタケ科は11種の割合となり、残りは夏に無かった腐生菌のキノコが過半を占める様になりました。

この日のきのこ目録は6頁の通りです。



きのこを前に松田さんの名講釈（坂本）

尚、先月から発生が期待されていたタマゴタケは、遂に発見できませんでした。

私の同定に、一部間違い有りましたので訂正します。フサヒメホウキタケは、先端の琴柱様の特徴が顕著で無かったので、ホウキタケの仲間とします。テングタケは、カサに白い幕片をつけ、柄が長く、ツバが無いので、カバイロツルタケに変更します。大量採取した、クロハツに似たものは、カサの色がうすいので、クロハツの仲間としました。また、カサが茶色のキノコ2種の内、ヒダが垂性でない方は、マツの倒木にあったのでアカチャツエタケとしましたが、他方は判りません。

来る10月4日の、秋のきのこの観察会は、コウタケをはじめ、更に多くの秋のキノコが発生すると期待しております。（松田）



ホウキタケの仲間（坂本）



カバイロツルタケ



アカヤマドリ



ミネシメジ

## ○ツチアケビ

金網で保護しているマダケ林の2株は、30個の実のうち22個が黒変し腐り始めていました。赤い実、黒変した実ともに、割ってみると内部に種子が確認できました。白いカビは見られませんでした。

鳥などによる種子散布のため、保護金網は撤去しました。

ヒメコマツ柵内には8月同様、1株に果実2個を残していました。



黒変した実（福島）



7月に東大の Helbert さんがヒメコマツ柵内のツチアケビに付着した白いカビ（右下画像）を試料採取し、東京大学奈良研究室でDNA分析の結果、Phoma 属の病原菌であるとの報告いただきました。（真鍋）

豊英島のツチアケビモニタリング状況は、9月までの結果を更新し、ホームページに掲載しますので、ご覧ください。



白いカビ（Mr.Helbert7/26撮影）

## ○センサーカメラの画像

8月23日3時7分から約35分の間に吊り橋上のカメラにアナグマ（ムジナ）が数カット写っていました。島内で餌を探して戻って来たにしては短時間過ぎるのでトイレに用足しにきたのかも知れません。

尚、橋上の糞の落とし主は複数種の可能性もあり、結論が未確定です。（坂本）



アナグマ（センサーカメラ8/23）



落とし主不明の落とし物

## ○野鳥の記録

トビ2 メジロ声 シジュウカラ声 ハシブトガラス声 エナガ5以上  
コゲラ声 セグロセキレイ2 以上7種（出現順）

伐採後の植物再生調査地内に鳥の古巣があるのを秋元さんに教えてもらいました。地上から3メートル程の高さの桜の若木の間ですから、調査の度に何度も人が近付いた筈なのに、落葉が進み見通しが良くなるまで誰も気づきませんでした。雖も親鳥も上手に隠れるものです。

巣の主が何鳥だったのか分かりません。トビや鷹は同じ巣を補修して何年も使いますが、この巣は使い捨てでこのまま崩れてしまう筈です。（坂本）



家主不明の巣

## 木の実の話題

台風に煽られて落下した木の実が目立ちましたので、関連の話題を2件  
アブラギリ

高木なので花や実を手にとって見るのは困難ですが、今回は運良く千年広場の看板近くにも沢山落ちていて観察に好都合でした。

一見すると椿の実に似て居て、厚い外皮を剥くと中から焦げ茶色の種が出て来るのも椿に似て居ます。

この種には油脂分が40%も含まれているので絞れば油が取れます。江戸時代にはこの油を唐傘の撥水剤、蝋燭の原料などに利用し、搾りかすは貴重な肥料だったそうです。有毒成分があり食用にはなりません。

現存のディーゼルエンジンでも改造なしで燃料に利用できるそうですから、近年はバイオ燃料として見直されつつあり、海外では植林計画もあるようです。(以上ウェブ情報の受け売り)



アブラギリの実

## ヤマボウシ

サクランボに似た長めの柄が付いた実は柔らかく、微かな甘みがあり食べられます。種が邪魔になりパクパク食べられる訳では無いので、今の子供なら見向きもしないでしょう。外来のアメリカハナミズキは庭園や街路樹に利用され、よく似た花が咲くので直感的に近縁種と分かりますが実の形は随分違うのに驚かされます。(坂本)



(参考画像) ヤマボウシ (左) とアメリカハナミズキ (右) の実

## お知らせ

### 〇次回活動日 10月4日(水) 秋のきのこ観察会

秋のきのこ観察会案内チラシを再添付します。平日で参加が難しい方が多いようです。講師はきのこワンダーランド開催中の忙しいところ、万障繰り合わせてご指導下さいます。会員の皆さんも万障繰り合わせてご参加下さい。ご家族やお知り合いも誘って。

### 〇きのこワンダーランド第2期

森はきのこがいなくては生きていけません。森は人々の営みを生み出します。森ときのここと人々の文化。この不思議な関係を多方面から紹介します。また、県中央博が開館以来収集してきた西洋と日本の菌類図譜集が一挙に公開されます。詳細はホームページをご覧ください。



## 9/18 千年の森きのご目録

|           |            |               |   |
|-----------|------------|---------------|---|
| ツキヨタケ科    | ツキヨタケ属     | シイタケ          |   |
| ツキヨタケ科    | モリノカレバタケ属  | アカチャツエタケ      |   |
| ツキヨタケ科    | モリノカレバタケ属  | アマタケ          |   |
| ヒドナンギウム科  | キツネタケ属     | キツネタケ         |   |
| キシメジ科     | キシメジ属      | ミネシメジ         |   |
| キシメジ科     | ヒメカバイロタケ属  | ヒメカバイロタケ      |   |
| テングタケ科    | テングタケ属     | カバイロツルタケ      | * |
| モエギタケ科    | クリタケ属      | ニガクリタケ        |   |
| フウセンタケ科   | フウセタケ属     | キヒダフウセンタケ     | * |
| イチョウタケ科   | ヒダハタケ属     | サケバタケ         |   |
| ホコリタケ属    | ノウタケ属      | ノウタケ          |   |
| イグチ科      | キヒダタケ属     | キヒダタケ         |   |
| イグチ科      | イグチ属       | ハナガサイグチ       | * |
| イグチ科      | イグチ属       | キアミアシグチ       | * |
| イグチ科      | イグチ属       | アメリカウラベニイロガワリ | * |
| イグチ科      | イグチ属       | * アカヤマドリ      | * |
| ベニタケ科     | ベニタケ属      | シロハツ          | * |
| ベニタケ科     | ベニタケ属      | クロハツ          | * |
| ベニタケ科     | ベニタケ属      | クロハツの仲間       | * |
| ベニタケ科     | ベニタケ属      | ベニタケ属種 4 種    | * |
| ベニタケ科     | ベニタケ属      | ケショウハツ        | * |
| ベニタケ科     | チチタケ属      | ツチカブリ         | * |
| ベニタケ科     | チチタケ属      | チチタケ          | * |
| ベニタケ科     | チチタケ属      | ヒロハチャチチタケ     | * |
| アンズタケ科    | アンズタケ属     | ヒナアンズタケ       | * |
| ラッパタケ科    | ラッパタケ属     | ウスタケ          | * |
| ラッパタケ科    | ラッパタケ属     | フジウスタケ        | * |
| ラッパタケ科    | ホウキタケ属     | * ハナホウキタケ     | * |
| ラッパタケ科    | ホウキタケ属     | ホウキタケの仲間      | * |
| ラッパタケ科    | ホウキタケ属     | チャホウキタケ       | * |
| コウヤクタケ科   | ゴゲチャハリタケ属  | サガリハリタケ       |   |
| ウロコタケ科    | キウロコタケ属    | キウロコタケ        |   |
| イボタケ科     | イボタケ属      | ツブイボタケ        |   |
| タマチョレイタケ科 | チャミダレアマタケ属 | ミイロアマタケ       |   |
| タマチョレイタケ科 | ツヤウチワタケ属   | ツヤウチワタケ       |   |
| タマチョレイタケ科 | シュタケ属      | ヒイロタケ         |   |
| タコウキン科    | ホウネンタケ属    | ホウネンタケ        |   |
| シロキクラゲ科   | シロキクラゲ属    | ハナビラニカワタケ     |   |

この他 サルノコシカケ科 オツネンタケモドキ属 アシグロタケ カワラタケ属 カワラタケ \*印は外生菌根菌